



そろそろ皆様の会長らしくなってきたようにお見受けします。それぞれの想いを持って、7月から臨んでいただけたと思います。2回目以上の会長様もいらっしゃると思いますが、4回目であろうと5回目であろうと、新鮮なお気持ちは変わらないと思います。

会長として一番肩にかかってくるのは権利ではなくて責任です。しかしロータリーですから、どうぞ思い切った行動をお願いしたいと思います。そのためにはこれからの7月までの期間が大変重要な時期と考えて下さい。ここにいらっしゃる皆さんは個性集団だと思いますから、おこがましいことは申しません。ですからロータリーについて解らない部分について、一緒に考えたいと思います。そして「なぜ、ロータリーの会長は毎年替わるのか？」ということを考えていただきたい。前年度通りならば同じ会長でも問題はありませぬ。前年度を下地として自分の年度のカラーは当然出したいものです。それぞれのロータリアンとしての歴史を皆さんは既にお持ちですから、それを具現化できる唯一の年度です。後悔のないようにしていただきたいと思います。

年度に入ってしまうえば、アッという間に終わります。毎週の例会での挨拶ですが、ロータリーのことについて話される会長さんは少ないと言われます。自分の職業についての話をされれば、全てロータリーに関する話だと私は思います。一番ご苦労されるのは、おそらく毎週例会での挨拶だと思います。私も1991-1992年度に会長をしましたが、その時に自分自身で決めたことは歴代会長の中で一番短い挨拶をしようということです。その中にインパクトのある内容を、と考えました。私は建築設計をしております、喋る商売ではありませんでした。それが「どうしてそんなに喋るようになったのか？」と聞かれますが、おそらく青年会議所、そしてロータリーのお陰だと思いますし、後悔もしていませんし、楽しい人生だったと思います。コミュニケーションは非常に大事です。ですから皆さんに言うておきたいことは、2つあります。①会長さんへのお願いですが、いかに会員とコミュニケーションをとるか。そのためには話し方を自分なりに工

夫していただきたいと思います。会長挨拶の時に私語が出ないような挨拶が大事ですし、いつも注目されている会長であってほしいと思います。次に、②ガバナー補佐さんへのお願いです。各クラブ会長さんと地区とのコミュニケーションはガバナー補佐さんの肩にかかっていますので、よろしくお願いします。

以上です。ありがとうございました。

2007-2008 年度地区運営方針

2007-2008 年度地区予算・クラブ分担金の承認 (ガバナーエレクト 平原 祥彰)



運営方針につきましては先ほど少し申し上げましたので、後ほど皆さんとやり取りしたいと思います。

まず予算・分担金について行いたいと思います。金額的にはほとんどが前年通りです。支出の部ですが、新しいことを実施するとなりますと新しい支出の科目を設けて、お金をやり繰りして進めるのが当然のことですので、皆さんとよくお話をさせていただいた上で、何かありましたら実施に向けて進めていきたいと思います。目新しいものはございません。

次に協議事項に移りたいと思います。地区への分担金は一人当たり 13000 円で会員総数が 2750人で計算しております。実態は 100 人程度足りませんが、増強への希望も含めております。次に R 財団への寄付ですが、当地区は今までも優秀な実績があり、一人当たり 200 ドルを目標としたいと思います。米山財団も優秀で、一人当たり 20000 円を目標とします。一人当たり青少年活動ファンドは 3000 円、WC S は 2000 円、地区大会の分担金は 10000 円で全員登録でお願いします。G S E の特別分担金ですが、私の年度にはイギリスへ 5 人派遣し、イギリスから 5 人お越しいたします。地区編纂の分担金は 300 円、ライラ特別分担金は 700 円をお願いしたいと思います。これは本年度と全く同じ内容です。

運営の方針にはいります。ロータリアンは仕事・能力・技能等を総合して、成功した人々が奉仕について一定の哲学・理念に基づいて集まって 100 年以上、全世界で活動を行っています。

30000以上のクラブがあり、毎週例会を行っています。奉仕のプロジェクトはいろいろありますが、ポリオについては高い評価を得ていて、ノーベル賞に匹敵すると言われていています。ロータリーは他人のためにお役に立つことに生きがいを感じる人々の集団だと思っています。そうすることによって、自分もまた幸せになることができます。そして的確にニーズを掴み、身の丈に合ったプロジェクトを実施していただきたいと思っています。そうすることによりプロジェクトも成功し、クラブも活性化するものです。地区のホームページでいろいろプロジェクトも見て参考にしてください。クラブのリーダーは自分のところだけではなく周りも見渡して、そして交流をするというのも良いかと思っています。1クラブ1プロジェクトと一人のロータリアンが1つ、何か喜んでいただけることを行っていただきたい。

地区大会ですが、私の年度は和歌山市内で2008年4月12日に開催の予定です。今後、素晴らしい案が出てくるものと確信しておりますので、成功に向けて皆様方のご協力、よろしくお願いいたします。

ロスアンジェルスで世界大会もございませう。ジャンボ機をチャーターして、500人程度の皆様に参加していただきたいと考えております。世界の多くのロータリアンとの出会いがあり貴重な経験になると思いますので、きっと参加費以上のプラスがあるはずでせう。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

意見交換・質疑

【分担金について】

(ガバナーエレクト 平原 祥彰)

皆様にご賛同いただきありがとうございます。できる限り無駄な出費を抑えて、有効に使いたいと考えています。

(PDG 前窪 貫志)

今年は2640地区となってから25年目です。初代は和歌山クラブの小中PDGです。月山PDGの時までは地区大会は登録制でした。担当のクラブの負担が大きいということで、その後、中島PDGの年度から今のような全員登録になっています。しかし未だに登録制で行っている地区もあります。一番この地区が豊かであったのは中村PDG年度から堤PDG年度にかけてで、会員数は約3900名でした。現在は約2600名です。小島PDG年度から私の年度あたりまでは、こういった予算書は皆さんの目にあまり触れていなかったのではないのでしょうか。その後、透明性を図るために今のような形になりました。決算は手続き要覧によると、年度が終わってから3ヶ月以内に報告するようになっています。とりあえず会長さん宛てに決算書は出しておいて、当地区は少し遅くなりますが、地区大会の前日に会長・幹事さんが集まった席でご承認いただければと思います。なおライラを取り上げてみますと、隣の2660地区に比べ半分以下の予算で行っていますし、非常にしんどいというのが本音です。いろいろ工夫して行っていますが、やはり理想は高いものがあります。しかし実現するとなると更なる予算が伴ってくるのが実状です。対内的ですと、抑えた予算でも結構かと思いますが、対外的にはそうはいきません。1400名近いメンバーの減少は非常に大きいものがあります。各クラブにおいても非常に頭の痛いところかと思いますが地区も同じですので、どうぞご理解いただきたいと思っています。

（ガバナーエレクト 平原 祥彰）

ロータリークラブは1905年にシカゴで4人から始められたということは皆さんもご存知かと思えます。100年余りの間に120万人、32400のクラブとなりました。手続き要覧を見ますと膨大な取り決め事項があります。それも長い歴史によるものだと思います。

理念の根幹にあるのは、自分の周りの社会や人々に対して奉仕を行うということです。そしてより効果的、効率的に行うにはどうすべきか、を考えることによってロータリーは発展してきました。その反面、いろいろなことが大きくなりすぎて理解しにくくなったということもあるかと思えます。ニーズのあるところに手を差し伸べる必要がありますから、奉仕プロジェクトも多くなってきます。

当地区の成川パストガバナーが宇都宮ロータリーの20周年で記念講演をされた内容の冊子を頂戴し、読ませていただきましたところ大変感銘をうけました。大事なことは3つあるということです。①自分で勉強する。②先輩に聞く。③自分から積極的にいろんなところへ出かけて行く。ということで、私も今後全力で取り組む所存です。

<質問>：次回の地区協議会も今回と同じ部門に分かれての開催になりますか？

CLPは自分のクラブに合った組織の見直しで、クラブを活性化させるための道具ですから各クラブ流に委員会を組織されたら良いと思えます。CLPは一つの例ですから、ご相談があれば地区もお手伝いさせていただきます。そうした活動の結果、勝野ガバナーノミニーのご判断で行っていただけたと思えます。
(平原ガバナーエレクト)

CLPは3段階で考えていただきたい。本年度のCLPは、まず皆さんに考えていただくという段階です。次の平原年度にはそれを進めて、実験的でもいいですから実際にやっていただきたいと思えます。そして私の年度には各クラブの状況を見ながら本格的に取り組みたいと思えます。
(勝野ガバナーノミニー)

<質問>：職業奉仕というものについて、ご指導下さい。

：職業奉仕の委員長に推奨できるようなアクションプランがあれば教えて下さい。

：次回からでも地区予算・クラブ分担金についての資料をご用意いただきたいと思えます。

講評をいただく時間がなくなりましたので、後ほどの全体会議において頂戴したいと思えます。ありがとうございました。

挨拶

（アドバイザー・PDG 平岡 正巳）



私からは本当に基本的な部分のお話をさせていただき、私も一緒に皆様方と共に学ばせていただきたいと思います。おそらくクラブの先輩方や幹事経験者からお聞きになっていると思います。幹事の幹はミキという字でクラブの要です。実務的なことの総責任者で、幹事さんがしっかりされていれば、会長さんはクラブの顔だけでもよろしいのではないかなと思います。しかしな

がら幹事さんがあまり表に出ますと、各委員会の活性化の障害にもなりかねませんし、放っておけば良いというのでもありません。各委員長さんと連携を密にしながら、気が付くところは助言もしていただきたいと思います。また例会は親睦・奉仕の修練の場ですから、クラブ活性化には非常に大切です。SAA、プログラム委員長と連携し、会員が出席したくなるような例会を心がけていただきたいと思います。その中でも卓話が重要ですのでよろしくお願いいたします。

クラブを運営していく上でいろんな問題も起こって参りますが、それは幹事さんが主に処理し解決していただきたいと思います。経験上、「4つのテスト」を当てはめていただくと、良い解決方法が浮かぶかもしれません。この1年間、大変かもしれませんが頑張ってくださいますようお願いいたします。

クラブ幹事の心得

（インストラクター・PDG 月山 和男）

会長さんはクラブのシンボルまたは象徴的なものですが、幹事さんは実務の責任者です。私が幹事をしてから40年経ちますが、その経験上の話ですが、私は医師ですので毎日診療がある中で、週のうち二日間は他の先生に代わっていただいて、その二日間を幹事の事に費やしました。一日は、例会が12時30分からですので朝から行って例会の準備をしました。事務局員、SAAとの打ち合わせし、外部卓話の場合は卓話者とお会いしました。例会終了後はニコニコ箱の集計と確認、そして例会出席者をチェックし、ビジターの方々については各クラブへ報告しました。もう一日は来るべき例会の準備・確認や多くの郵送物のチェックや振り分けを行ったりしていました。



幹事さんは管理・運営の責任者ですから、私の時代ではクラブに何か問題が起こると全て幹事さんの責任と言われました。今、それぞれのクラブを見てみますと、ほとんど事務局員さんに任せている幹事さんが多いのではないのでしょうか。R1の人頭分担金の振込がわずかに不足しただけでも、クラブが消滅することもあり得ますので幹事さんの責任は重大です。また絶えず各委員

長さんと連絡を密にさせていただいて、委員会の議題によってはその委員会に出席して下さい。書類がクラブに届いた時にはまず自分で読んで、委員長さんに渡して、委員長さんがその返事を書いたかをチェックして、幹事さんが送るようにしていただきたいと思います。何事も事務局員さんのせいではなくて、幹事さんの責任とご認識下さい。

幹事を一年間やりますと、かなりの知識が身に付くと思います。それを基に今後のロータリー活動を楽しむための一年間だと考えていただきたいと思います。幹事さんはいろいろな質問があった場合は、その質問に答えるべき立場ですから、手続き要覧・幹事要覧は例会には必ず持参して下さい。

【クラブ幹事の責務と役割】

幹事さんは自分のクラブの会員の名前、顔、職業分類、入会年数、会長・役員経験者かどうかなどは覚えておき、会員記録も確認しておいて下さい。

出席記録と報告ですが、これは出席委員長さんの責任ではなく出席報告は幹事さんが行うべきものです。例会出席となるのは、例会時間の60パーセント以上出席した場合で、例外の時は幹事さんの許可により出席とみなされます。

会員資格についてですが、半期ごとの例会数の60パーセントを出席しなければ、会員資格はなくなります。うち自分のクラブには30パーセントの出席が必要です。特別な事情がある場合は、理事会にて決定をもらえれば良いかと思います。

諸会合の通知ですが、全て幹事さんの名前において行われます。

議事録の作成も幹事さんの仕事です。理事会等の議事録を作成し、保管して下さい。また理事会の内容を例会で報告するのも幹事さんの役割です。

クラブの定款および細則の点検ですが、定款は各クラブで変更できませんが、細則は見直し可能です。今年は規定審議会が行われます。制定案と決議案というのがあり、制定案といいますのは定款を改正する案で、決議案はR I 理事会に対して要望する案です。制定案が決まれば当然クラブ定款も変わりますし、細則も変わります。それが実施されるのが今年の4月で、その後国際大会において異議がなければ定款が変わります。手続き要覧が改正されると思いますが、それが皆さん方のクラブへ来るのが今年の終わるか来年の1月になると思います。そうしますと皆さんは自分のクラブの定款と細則を変更して、会員に周知徹底する義務があります。3年に一度回ってくる大変なお仕事だと思いますが、その年度に当たっているということです。

会員増強については、「数は力なり」というのがR I の考え方です。今は同じ職業分類で5人入会が可能です。50名以上のクラブは5人に限らずに、会員数の10パーセントを越えない人数なら可能ということです。いろいろ厳しい状況もあるかもしれませんが努力していただきたいと思います。

各委員会との連携では、会長さんは全ての委員会の委員を兼ねていますから、本来は全ての委員会への出席義務があるかと思いますが、場合によっては代理としてオブザーバー出席をし、会長の意に沿っているか等の確認やアドバイスをしていただきたいと思います。

R財団ならびに米山奨学会への寄付については、あくまで地区の目標ですが、R財団は一人当たり200ドル、米山奨学会は20000円です。

本日の資料のガバナー事務所への報告書、先ほど配りましたR I への報告書は必ず幹事さんが確認して報告して下さい。

R I の人頭分担金ですが、今は23ドル50セントです。これを7月1日と1月1日に送らなければなりません。7月2日から10月1日まで、1月2日から3月末までに入会された方に

についてはその半額を送金しないとなりません。これは地区も同様です。ですから幹事さんは会計も、きちんと見るようにして下さい。ロータリーの友の金額も送金よろしくお願ひします。規定審議会のための1ドルは追加して送金していただければなりませんので、こちらもお気を付けて下さい。

地区予算につきましては本日会長エレクトの部門で、ご承認を得ることになっておりますので後ほどお聞きいただきたいと思います。

R財団の送り先は注意していただきたいのですが3つあります。10万円未満、10万円～30万円、30万円以上というように金額によって送金先が違いますのでお間違いないようにして下さい。

理事会は月に1回は必ず開催しなければなりません。前もって議題を挙げて、メンバーに連絡する必要があります。理事会の議長は会長ですが、それを補佐し議事録を録ることも幹事さんのお役目です。

次にクラブ協議会です。手続き要覧には数回と書かれていますが、クラブによってお決めになることですが、お願ひとしては6回程度開催していただきたいと思ひます。まず年度初めにその年度の方針を会員に周知するため、ガバナー公式訪問の前、12月に半期の報告、1月に残り半期の計画の確認、地区協議会の終了後に次年度の方針の報告、年度の終わりに年次報告書作製のため、以上で6回となります。

I M、地区大会、国際大会、地区協議会については会員に対して積極的に参加をお願ひしたいと思ひます。

それぞれの強化月間については、変わっている場合がありますが、月間にちなんだ卓話もよろしいのではないかとと思ひます。

<質問>：次期のガバナー公式訪問のスケジュールと確定時期をお聞かせ下さい。

CLPについて

(情報・規定アドバイザー補佐 上野山英樹)



CLPとはクラブ活性化の道具であり、魅力あるクラブ作りとクラブ活性化のための運営の改革です。RIが提唱したクラブの活性化ですが、これによって必ずしも活性化するわけではありません。それぞれのクラブの特性を踏まえて行ってこそ、効果が出ると思ひます。

CLPとは従来の四大奉仕部門を効果的な簡素化された組織にしてはどうか、というのがRIが言っているCLPです。しかしながらその組織には、ロータリー

の理念であります四大奉仕の部分が見当たりませんし、とりわけ親睦というクラブ奉仕は出てきません。また職業奉仕も奉仕プロジェクトという中に入ってしまったております。今回、RIのCLPにいろいろ問題が出てきており、ロータリー理念の喪失と親睦の軽視のように思ひます。

クラブの立場から考えたCLPは、クラブ細則の範疇です。義務付けられたものではありませんが、この先CLPは避けては通れないと思ひますし、この機会にクラブ活性化のための議論をするということは非常に良いことではないでしょうか。クラブサイズに合った組織の再編、見直しの良いチャンスと思ひます。誤解のないようにしていただきたいことは、組織の簡素化がCLP

ではありませんから、表面上の委員会の形だけにとらわれないようにして下さい。

それに関連してですが、この4月に規定審議会が始まります。R I 理事会から四大奉仕を定款に入れましょう、という案件が急遽出てきました。と、言いますのも日本でR I のCLPが非常に物議をよびまして、四大奉仕を無視しているのではないかという意見がずいぶん出ました。おそらく可決されるかと思いますが、そうなりますとロータリー理念を擁護してきた日本をはじめとするクラブや地区は、CLPを真剣に考えて取り組むといった流れになっていくように思います。4月末には結論がでますから、その時には四大奉仕を踏まえたCLPを考えていかれてはと思います。

米山奨学会はどうするのか？といったこともよく聞かれます。日本独自のものですが、これは是非残していただきたいと思います。資料として私どものクラブの編成をお配りしますので、よろしければご参考にして下さい。

(PDG 平岡 正巳)

今回の規定審議会に四大奉仕の案件が出るということを聞きまして、 hopeful なことと思います。現実には会員数の少ないクラブにおいてはすでにCLPを実施されているのではないかと思います。

(PDG 月山 和男)

CLPがどんなに出てきたとしても皆さん方にお守りいただきたいは、ロータリークラブはあくまでも個人奉仕が主体であって、その中の職業奉仕が基本になっていると思います。ただ単にお金を出して、団体で寄付すればそれで良いといのではありません。自分たちの職業を通じて地域の方々のために奉仕をするのが原点で、また地域に密着した奉仕活動を行うことで広報になると思います。